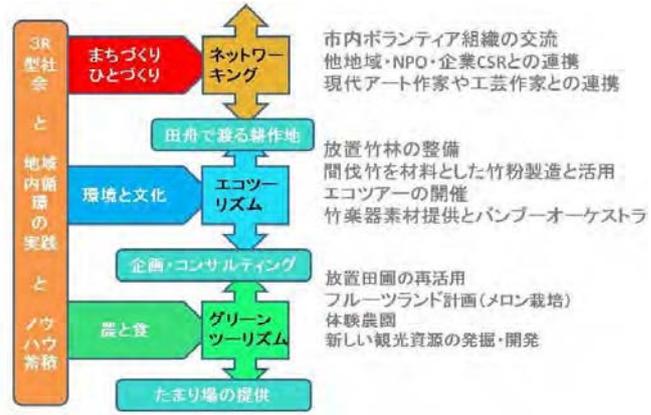


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

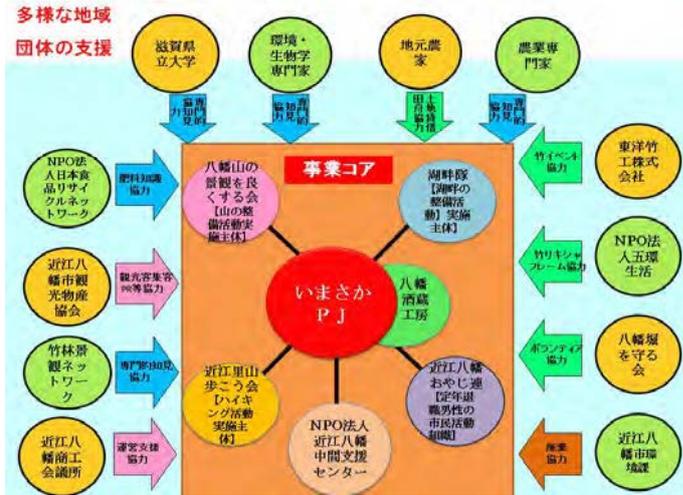
| | |
|-----------|---|
| 分類 | 多様な主体の連携・協働/バイオマス等資源活用 |
| 手法名 | 里山と湖をつなぐ竹林整備・活用活動 |
| 主体 | いまさかPJ他、近江八幡市内のネットワーク団体 |
| 背景(地域の課題) | <p>滋賀県の琵琶湖畔では、侵入竹林によって破壊が進みつつある遺跡等を含む里山景観と、陸地化しつつある湖畔のヨシ原の保全が課題になっている。</p> <p>放置竹林の整備と耕作放棄地の再生を結び付けて相乗的に効果の上がる対策を講じることで、湖畔景観を構成する里山とヨシ原を保全するとともに、活動によって出てくるバイオマス資源の有効活用策が模索されている。</p> |
| 手法／方策の詳細 | <p>近江八幡市で活動する「いまさかPJ」は、市内の多くの保全活動団体と連携しながら、里山から湖畔に至る様々なフィールドにおいて下記の竹林整備関連活動を展開している。</p> <p>1)八幡山での侵入竹林整備と遺跡保全 豊臣秀次の居城であった八幡山は、近年侵入竹林の被害で貴重な歴史遺産の破壊が懸念される状況となっている。そこで、ボランティアによる竹林間伐作業を実施し、竹材の搬出作業を行っている(写真1)。</p> <p>2)水郷集落を拠点とした放棄水田・ヨシ原再生活動への竹材利用 日本三大水郷のひとつにあげられている近江八幡の水郷地域は、国の重要文化的景観として登録されると共に、西の湖と長命寺川はラムサール条約湿地としても登録されている。しかし、水郷内の放棄水田の増大や、ヨシ原の遷移と陸地化などが課題になっている。 ボランティアにより耕作放棄地を開墾し整備することで陸地化や遷移をとめると共に、田舟で竹材を運んで、竹材を利用したハウスづくりや、竹粉化して作物栽培に利用している(写真2)。</p> <p>3)その他竹材の多様な活用(観光利用等) 保全活動で発生した竹材について、ネットワークの各団体の機能に応じながら観光等と関連させて次のような活用を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹粉製造(近江牛などの飼料、竹粉青じそジュース) ・竹構造材(ツリーハウス・竹温室・竹柵)(写真3) ・竹工作(竹ベンチ・竹プランター・エアコンカバー・竹ほうき・犬矢来・箸・食器) ・竹工芸(竹箆・竹花生け・お菓子かご・丸行灯) ・竹紙漉き(竹紙・照明) ・竹染め(スカーフ・ハンカチ・バック) ・竹楽器(クロンプット・横笛・カスタネット・打楽器) ・竹リキシャ(竹を用いたワゴンタイプの観光用人力車)(写真4) |
| 手法・技術的視点 | <p>里山から湖畔に至るまでの森・里・川・湖で構成される地域景観に対して、フィールドに応じたきめ細かな保全・管理・活用策を講じると共に、相互の取組をを有機的につなげることで相乗的に保全効果を高めている点で着目される。</p> |

実行プロセス・運営体制のイメージ

・プロジェクトの実行プロセスイメージ



・運営のネットワーク



図・写真資料



写真1:八幡山の竹林整備活動



写真2:水郷内の水田跡の取組地



写真3:竹材を利用した温室(バンブーハウス)



写真4:竹リキシャ

参考資料

平成25年度里なび研修会in兵庫県姫路市パワーポイント資料「いまさかPJの間伐竹再生活用」(小関皆乎)